

車いす修理&メンテナンス技術講習会

新潟医療福祉大学 Flying Wheelchair Supporters (FWS)

〒950-3322 新潟県新潟市北区島見町1398番地

助成事業の概要

現状として先進国以外の国での車いす供給が不足している。日本で使われなくなった車いすを日本で修理し、発展途上国のアジアに寄贈、現地で車いす修理ボランティアを行うことを目的とする。

具体的に、

- 1、日本から海外に送った車いすの点検、修理。
- 2、現地の方による自立した車いす使用の実現の支援。車いすの取り扱い方や修理、点検の方法を伝える。
- 3、利用者、利用者家族、環境に合わせて処方した車いすの寄贈。

を目的とし本事業を行う。

今回は2016年8月31日（水）—9月4日（日）にタイで実施。

この活動では車いすの修理技術だけではなく、大学にて身体評価や障害、利用者や周囲の環境整備の知識を用いて利用者により合った車いすの選定、シーティングを行う。現地（利用場所）に赴き環境を把握したうえで、利用者個人の要望や身体状況を確認し車いすを適合、使用してもらい車いすの説明や操作方法をサークルメンバーが実演しながら伝える。

事業の成果

私たちは空飛ぶ車いすサークル（FWS）という、中古の車いすを修理して海外へ寄贈するという活動を行っている。今回、タイに209

台輸送し、現地の高校生と大学生に修理方法を教えながらすべての車いすを修理し、寄付することができた。現地の方々とのコミュニケーションは簡単な英語やジェスチャー、事前に予習したタイ語を使ったりなど、積極的に現地の方々に関わった。

活動1日目は、現地の高校生・大学生と共に車いすの修理を行い、

活動2日目は、車いす利用者のお宅まで訪問した。利用者の方々は様々な疾患を持っており片側切断者や痙性の強い方など、疾患に応じて車いすのシーティングや選定を行った。

活動3日目は、車いすを現地の病院へ寄贈し、病院にお越しいただいた方へ車いすのシーティング・選定を行った。

シーティング・選定はFWSが主体となって行動し、利用者の疾患に応じて専門的な知識を元に適合を行った。

本プロジェクトで得られた成果については、現地の高校生・大学生に車いすの修理方法を教えられたことにあった。また今後、それを様々な人に教え多くの方が修理や車いすの操作方法を知ることが、私たちの活動の目標になると思う。

車いすを寄贈するにあたって利用者和我们との「車いす」に対する価値観の違いが出現し、利用者は車いすを“動くことができる楽な車いす”という考えを持っているように見受けられた。しかし、身体に適合していない車いすを使用することは2次障害を合併し、車いすを使用する前より病状を悪化させてしまう結果になる

可能性が高いため、より良いシーティング・選定が必要だと感じ、今後の活動につなげていきたい。

振り返り、小さなところだが力になれるよう活動していきたい。

■ 成果の広報・公表

- 1、サークル内での活動報告（12月）
- 2、新潟医療福祉大学オープンキャンパスで高校生向けの活動報告
- 3、健康フェアにて活動報告（11月中旬）

■ 今後の展開

今後は修理だけでなく、病状の理解、適合・座位保持の勉強を強化していきたい。実際に製作会社で働いている方をお呼びし、勉強会を開いていただくことを考えている。

また、海外の修理会での適合時に使えるような簡易クッション、レッグサポートなどの製作を学び、現地での適合に役立てたい。適合した後も継続して使っていただけるよう、クッションの必要性も伝えていくことが必要である。

実際に生活しているお宅を訪問することで初めて見えてくる問題がたくさんある。家の床が高く、外から中に車いすで入ることが難しいため車いすは外だけの利用にする、家族に介助してくれる人はいるのか、道は整備されているのかなど、その方の生活を知ること続けていくことが大切である。

適合する方の事前の身体情報が正しく伝わらなかったということがあった。また、症状を聞き出す時の通訳はほとんどコーディネーターさんに頼りきりになってしまった。事前に言語を勉強してコミュニケーションがとれると良かった。

東北での活動では、復興はかなり進んでいるが車いすの修理・点検には手が回っていないという話を聞いた。これからも継続して訪れ、震災を